

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 5月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	2295300046
法人名	社会福祉法人 鳳会
事業所名	グループホーム ふじトピア
所在地 (電話番号)	〒426-0204 静岡県藤枝市時ヶ谷417-2 Tel 054-638-5251 FAX 054-638-5262

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年2月12日

【情報提供票より】(平成20年1月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 11 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	3人
非常勤	7人
常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造合金メッキ鋼板	造り
	1階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

(4) 利用者の概要(平成20年1月11日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三倉医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム・ふじトピアは、藤枝市の郊外の国道1号バイパス藪田西インター近くに立地し、近くには経営本体である特別養老老人ホーム・ディサービス・ショートステイ等の関連施設がある1ユニットのホームとして平成18年11月に開設されている。施設長はじめ幹部職員の介護福祉に対する造詣が深く、グループホームの運営面でもこの想いが随所に現れている。ホーム玄関に入ったときのホーム内の雰囲気明るさ、さりげなく置かれた可憐な花の咲く鉢など、ホーム長、職員の心遣いが伝わってくる。理念として3つの和を掲げ(人の和、地域との和、人としての尊厳の和)、これを実践すべく日々のケアサービスに取り組んでいる。職員育成のための研修の充実、家族との絆、地域とのふれあい、利用者本位のケアサービス、どれもが順調に進められ、自己、外部評価も真摯に受け止めサービスの質的向上をめざしているホームでもある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が、初めての受審である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目は職員研修時の資料として活用が図られているほか、日常の介護記録の中で関係する事象があるときは、介護記録用紙に該当の項目を貼り付けて職員に注意を呼びかけをする等、評価項目の活用と共有化を図っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告しあい、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、今回の外部評価の結果についても意見を交わすことにしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪者訪問ごとに記入していただく「面会記録簿」に要望・意見・苦情欄を設けて、家族等からの意見・要望を聞き出し、出された意見・要望等はミーティング、会議の場で話し合い、ケアサービスに反映させている。また、面会記録簿は1名一葉になっており利用者・家族のプライバシーにも配慮が見られる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の祭りや行事には積極的に参加し、また、施設主催の祭りや行事には、地域の人達も招いたりして交流を深める支援が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念に基づいて、開所時に職員全員の意見を集約してホーム独自の理念をつくりあげている。3つの「わ」からなる理念は、人の和、地域との和、人としての尊厳を保ち安心して暮らせる和を表現したものとなっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、毎日のミーティングの場における唱和や会議の席で確認を行うなどの取り組みをしている。	○	これからは理念の実践に当たり、ケアサービスの質的向上のためには具体的目標を掲げるなどして実行されていくことが望まれる。
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の祭りや行事には積極的に参加し、また、施設主催の祭りや行事には、地域の人達も招いたりして交流を深める支援が行われている。	○	4月から自治会への加入を検討しているようであるので、更に自治会との連携を深め、地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割りを担っていかれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目は職員研修時の資料として活用が図られているほか、日常の介護記録の中で関係する事象があるときは、介護記録用紙に該当の項目を貼り付けて職員に注意を呼びかけをする等、評価項目の活用と共有化を図っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告しあい、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、今回の外部評価の結果についても意見を交わすことにしている。	○	運営推進会議には、自己評価の内容を説明することや外部評価の結果も公表することが必須ですし、より多くの人達(地域住民や消防、警察等の防災・防犯)に参加を呼びかけて会議の一層の充実が図られることを期待したい。

グループホームふじトピア

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当課から職員研修、感染情報等を入手し運営に役立たせているほか、介護保険の手続きには利用者本人に同行して担当窓口に行くなど機会あるごとに市役所に出かけ連携を図る努力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に頼り「ふじトピア」を発行し家族へ発送しているほか、毎月1回金銭出納帳と領収書を郵送している。また、家族の面会時においても暮らしぶりや健康状態についても報告をしている。	○	外部評価のアンケート調査によると、「事業所での暮らしぶりについて報告はありますか。」との問いかけに「よくある」「ときどきある」が、どちらも半数あるが、報告は「よくある」方に持っていかれることが望まれる。又、個人別にも便りをしたい考えなので、毎月、担当スタッフからの一筆箋も視野に入れられたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪者訪問ごとに記入していただく「面会記録簿」に要望・意見・苦情欄を設けて、家族等からの意見・要望を聞き出し、出された意見・要望等はミーティング、会議の場で話し合い、ケアサービスに反映させている。また、面会記録簿は1名一葉になっており利用者・家族のプライバシーにも配慮が見られる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することを重要と考えており、職員の健康を第一と捉え、開設時からの職員は体調等お互いにフォローをしながら全員在籍している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成のための研修には力を入れており、施設内・外の研修には機会あるごとに積極的参加を促し、資格取得研修参加には出勤扱いにするなどの特典を行っている。また、課題解決の一方法としてOJTを取り入れ人的向上策も見られる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者へは開設の折、後発としてあいさつ一巡とホーム長自らの趣味(お琴)を生かした訪問活動を行っているが、同業者との交流・連携ははまだ機が熟されていない。	○	他の同業者との協働関係は大変難しい問題を抱えているようであるが、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携を心がけネットワーク作りに努力されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前から本人が職員や他の利用者、ホームの場に徐々に馴染むように、お試し入所を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考え方を職員が共有しており、時には教えを乞ったり、支援したりの関係が訪問当日随所に見受けられた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、一人ひとりの状態観察や声かけなどにより、本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、これらを介護記録に細かく記録し、共有化を図っているようであるが、引継ぎ者双方の確認は認められるが、他の職員が確認したとの記録が不明である。	○	前任者の残した記録を確認した場合は、認識したとの証を残すことが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意見、日々におけるカンファレンス、職員会議での話し合いを通しホーム長が作成している。作成された介護計画書は利用者個々のファイルに入れ職員に知らせるようにしている。	○	介護計画作成後、ファイルに入れ自由に閲覧できるようにしているが、職員の全てに周知徹底を図るためには、作成後全員に周知する方法として、例えば、回覧形式などした後、ファイルに収める等の一工夫をされたらと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	安定している利用者にあっては、介護計画を6ヶ月に1回の見直しを行っているが、日々の申し送りやカンファレンスにおいて状況の変化があったときは、実情に応じたケアにつながるよう介護計画の見直しが行われている。		

グループホームふじトピア

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列他事業所との情報交換、系列母体との合同の祭り・イベント等の参加が行なわれている。また、本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を優先し、かかりつけ医や協力医療機関の受診を支援している。また、必要に応じ往診を受けるなどして負担のかからないような早期対応にも努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には、重度化した時は在宅で出来るケアの範囲として意思確認を行っている。また、職員の対応としてマニュアルを作成し、年2回の研修を開催して方針の共有化を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関することを話さないことを組織全体の取り決めとして徹底させているほか、トイレへの誘導の声かけにしても直接的な言葉でなく、職員同士の合図(レンゲ、タンポポ)をすることで尊厳を傷つけないような配慮が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた支援を心がけている。支援する側される側にとらわれないよう留意されている。		

グループホームふじトピア

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の得意分野において、共に力に合わせて野菜きり、盛り付け、配膳、下げ膳、食器洗い、テーブル拭きなど、声をかけながら一緒に行っており、当日は、男性利用者がチャーハン作りに精を出して上手に出来たことを誇らしげにしている姿が印象的であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入浴していただいている。また、入浴の効果を考えて出がらしのお茶やみかんの皮を干したもの、ゆず湯、菖蒲湯などの薬事効果のあるものを自家製入浴剤として使用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活が張り合いのあるものとするため、各人の力量に合わせて散歩、買い物、調理、洗濯物の処理、菜園の世話、手芸に至るまで、それぞれで出来ることを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩だけでなく、ゴミ出し、食材等の買い物、買物がてらの近郊ドライブ等、あらゆる機会を捉えて戸外に出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練が実施されている。また、地域の協力体制については、自治会でお願いしたり、運営推進会議でも協力を呼びかけている。	○	夜間の防災対策について検討の要がある。

グループホームふじトピア

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は個別に対応され記録されている。苦手な食材も調理方法に工夫を加えて食べ易い状態にするなど栄養バランスへの配慮がとられている。	○	献立は主菜・副菜2品を基本に和食を中品にしたメニューが組まれている。栄養計算がされていないので検食の記録を取り、給食会議で内容の検討を行い栄養の偏りが無いよう希望したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の居間のスペースが広く各々がゆったり寛ぐことが出来ている。生活観や季節感がを感じる音や匂いが感じられ居心地よく過ごせる過ごせるよう工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時家族等に対し、本人が馴染みの家具等を持ち込んでいただけるよう懇請し、それぞれの居室作りがされている。		